

4
たるまえさん
樽前山のまわりに
くらは生き物



たるまえさん

4 樽前山のまわりにはくらゐ生き物

1. 樽前山の自然

樽前山のまわりには、川や湖、森や湿原しつげんなど、たくさんの美しい自然が広がっています。こうした豊かな自然ゆたは、多くの生きものたちの命をはぐくんでいます。



樽前山のまわりには
どんな生きものたちがすんでいるんだろう？

ウトナイ湖は、アイヌ語で『ウトナイト』と呼ばれ、ウツよ(あばら骨ほね)
ナイぬま(川)トぬま(沼)『あばら骨のような川のある沼』という意味です。
ウトナイ湖には美々川びびがわやトキサタマップなどのたくさんの川が
そそぎ、まわりには、湿原などの自然があります。ガン、カモやハク
チョウなどのわたり鳥がたくさんやってきます。

2. 樽前山は、はだか山？



樽前山の上の方には、
なぜ大きな木が育たないのでしょうか？

樽前山に登ると、溶岩ドームようがんの近くはみはらしがよく、まわりのけしきがよく見えます。上の写真のように、樽前山はとなりの「**風不ふっぶ死岳しだけ**」(アイヌ語で「トドマツが多い山」)とはちがって、大きな木が生えていないからです。樽前山は、その活発な火山の活動かつどうにより、木が育つのに必要な土壌どじょうが厚くならないため、大きな木が育ちにくいのです。



でも、^{たるまえさん}樽前山に登って、登山道のまわりをよく見ると、下の写真の
ような背の低い植物が生えていることがわかります。これらの植物は、
『**高山植物**』と呼ばれています。



樽前山で見られる高山植物



シラタマノキ



イワブクロ(タルマイソウ)



ミネヤナギ



エゾリンドウ

3. ^{ゆた}豊かな森



^{き せつ}季節ごとに、^{たるまゑさん}樽前山の色が変わるのは
どうしてなのでしょう？

樽前山のふもとの森は、春は黄緑色、夏はこい緑色、秋は赤や黄色、冬は雪で真っ白に、季節ごとに色とりどりの変化を見せます。ハイキングやバードウォッチングにはとてもよいところです。また、山の上は、^{すがた} ^{がんか}あらあらしい火山の姿や、眼下に広がる湖と広大な森の景色を見ることができます。夏には、高山植物がきれいな花をさかせ、登山者たちの目を楽しませてくれます。



4. 森はよみがえる

こわされた森はどうやってよみがえるの？

植物は、動物のように自分で動くことはできません。でもそのかわりに、風や水、動物にタネをはこんでもらいます。このため、火山活動や山火事、台風などによって森がこわされても、森は時間をかけて、よみがえることができます。

森ができれば、たくさんの動物たちがそこで暮らすことができます。動物も植物も、おたがいやくわりやくわりに役割をもって生きています。

植物のタネのいどう



①風によってはこばれる



②水によってはこばれる



③動物によってはこばれる



5. 自然のつながり

山の生き物のやくわりはどうなっているの？

山に生きている植物や動物がもつ役割は、みんなつながっています。植物は、太陽の光などを使って、自分で栄養^{えいよう}を作り成長しています。一方、動物は植物のように自分で栄養を作ることができないので、植物を食べたり、ほかの小さな動物を食べたりして生活しています。このような『食う』『食われる』という生きものどうしのつながりのことを『食物連鎖^{しょくもつれんさ}』と呼んでいます。



6. 豊かな水

山に降った水はどこに行くの？

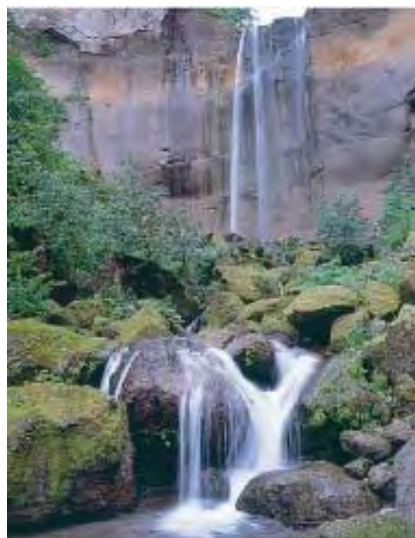
樽前山に降った雨は、地面の中にしみこんで、火山が作った細かい砂の間やふもとの森の中をゆっくりと流れ、ふたたびわき水となって地面の上に出てきます。樽前山のまわりには、このようなにごりの少ないきれいな水がたくさんわき出ているところがあります。この水は川となり、飲み水や工場で使う水、電気を作るための水などとして使われています。

知ってる!?

インクラの滝



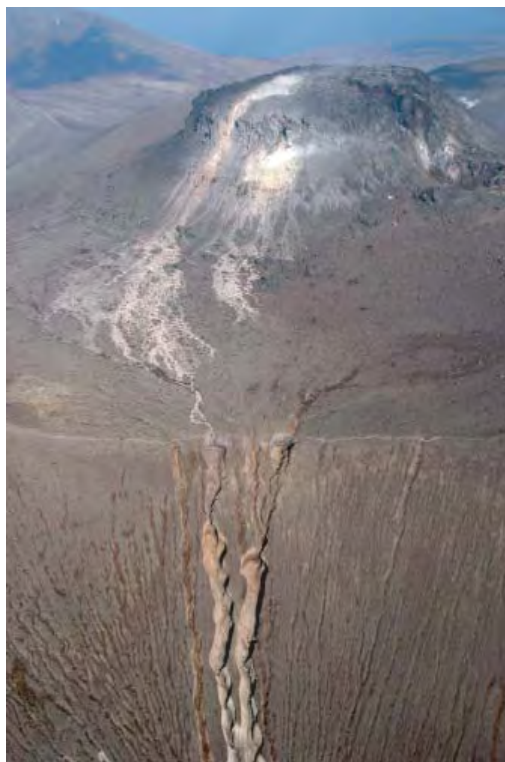
高さ50mもの崖の上から、水しぶきをあげて流れ落ちる滝と、まわりのゴロゴロした岩の景色は、あらあらしく、とても個性的です。1991年には、日本の滝100選にえらばれ、樽前山のふもとの名所として親しまれています。



7. 変わりゆく自然のすがた

変わりゆく自然のすがた

樽前山のまわりでは、火山活動によって作られた地形が、長い年月とともに変化し、とてもめずらしい景観けいかんを見ることができます。



しゃめん
樽前山の斜面にできたみぞ

火山の活動かつどうによってできるやわらかい地面は、雨が降ると、ところどころ削られて、みぞけずができます。これを『**浸食**』しんしょくと言います。時間がたつにつれて、このみぞはどんどん深く大きくなっていきます。



どうもん
コケの洞門



たるまえ
樽前ガロー

このような大きなみぞができるまでに 何年かかったのでしょうか？

『コケの洞門』や『樽前ガロー』は、1667年の樽前山かつどうの活動によって積もって固まった岩が、雨水などによって削られてできた谷です。このような谷は『**浸食**』しんしょくによって、積もった後の数年でできてしまいます。谷の深さは、およそ10mにもなります。まわりの岩には、エビゴケ・チョウチンゴケ・オオホウキゴケなど30～100数種のコケ類みつせいが密生してめずらしい世界を作り出しています。



※ガローとはアイヌ語で『がけ崖の間を川が流れる場所』のこと